

大草谷津田生きものの里 自然観察会

生きものたちの冬支度

山下美佐子（東金市）

日 時：2015年12月20日（日）10時30分～12時 天気：晴

参加者：10名（大人7名・子ども3名）指導員：4名

担当指導員：芳我めぐみ 山下美佐子

今年はいつまでも秋の気温が続いていましたが、観察会当日朝は霜で大草は真っ白。冬らしい気温と青い空で観察日和になりました。年末の忙しい時期でしたが、子ども連れの2家族と、いつも大草の自然が好きでいらしていただく人達の参加でした。観察会のいつもの諸注意を話してから、生きものたちの冬支度の観察会始まりです。まず、参加者に大草で観られた春、夏、秋に観られた生き物を思い出してもらい、今はどうしているかな？ と想像してもらいました。参加の子どもさん達は未就学児ばかりでしたので、カマキリの卵のうなどの絵を見せ、探してみようと呼びかけました。しばらく探して、オオカマキリやハラビロカマキリの卵のうをようやく見つけることができました。鳥に食べられた卵のうを見つけたので、感触を確かめてもらい、この中は200～300の卵があり、寒さも暑さも一定に保たれ、雨にも濡れないというオオカマキリのお母さんの知恵を話しました。

森の中は落ち葉のクッションの道です。足元の落ち葉の感触を感じて、この落ち葉はどこからきたのかな？ と上を見上げます。裸の木々の間から青い空が見えます。落葉樹は葉っぱを落として、冬の寒さや乾燥から身を守る工夫をしています。さらに進むと成虫越冬のアミメクサカゲロウがひらひらと飛んできました。捕まえて、皆でよく観察しました。きれいな緑色です。放すと常緑樹の葉裏に止りました。緑の葉の裏だと見つけられにくいね と参加者。大きなケヤキの木の下では、落ち葉の上にモンキツノカメムシ、落ち葉にくるまったミスジマイマイ、幹にミヤマカメムシ等を発見。気温が低いと虫は動くことができないので皆、じっくり観察ができました。枯れたイノコズチの根元を掘ったら、来年の新芽の用意が観られ、植物の知恵にも感心。用意したカタバミやハハコグサ等の太い根を見せ、この根で養分を蓄えていますと説明。明るい田んぼの畦道は、ハルジョンやハハコグサ等のロゼットが。ロゼットは、冬の短い日差しを沢山取り入れ、寒さから根っこも守る植物の知恵ですと説明。成虫越冬のムラサキシジミや、もうすぐ命が尽きるコバネイナゴも数匹観られました。最後は、途中で採ったリュウノヒゲスーパーボール遊びをしたり、ササ舟や枯れ葉を川に流したり、落ち葉で紙吹雪遊びをしたりして初冬の雑木林を楽しみました。



モンツキノカメムシ

